


タイトル	平仮名を読むことに実態差のある児童に対する全体指導でのiPad活用			
学 校 名	茨城県立水戸飯富特別支援学校	学部・学年	小学部1学年	
教科名等 単元・題材名	国語 「これなあに?～よんでみよう, えらんでみよう～」			
児童生徒の実態	・本グループは6名で構成されており, 平仮名をある程度読める児童から身近な物の名称は理解しているが平仮名を読むことが難しい児童, 平仮名は読めるが物の名称との対応が難しい児童, 平仮名を読むことが難しく身近な物の名称は理解しているが指定された物を選ぶことが難しい児童など実態差の大きいグループである。			
授業の目標	・平仮名と身近な物の名称を合わせることができる。			
ICT 活用の ねらい	・児童の実態に応じた教材を準備することで, それぞれの課題に応じた全体学習を行うことができる。	主に活用した アプリなど	・iPad ・アプリ「fingerbord」	
授業における 支援  授業展開	【アプリ「fingerbord」について】 ・自作の問題を作成することができるため, 個に応じた問題を作成することができる。 ・テスト形式にも対応しており, 主体的に学習に取り組むことができる。 ・テスト結果を集計でき, 学習の積み重ねができる。			
	【支援の手立てと授業展開】 (1) 各自, 問題を解く。			
	①写真やイラストを見て平仮名を1文字ずつ並べる。	②写真やイラストを見て平仮名をまとまりで選ぶ。		
				
③平仮名を読んで写真やイラストを選ぶ。(スライド式)	④言葉を聞いて合う写真やイラストを選ぶ。(タッチ式)			
				
(2) 全体で発表をする。 ・スライドに問題を映し, 一人1問ずつipadを操作して発表する。				
【学習の様子】 				
児童生徒の変容	・実態差のあるグループでの平仮名の指導において, アプリ「fingerbord」を活用し, それぞれの課題に応じた学習を行うことで, 学習に主体的に取り組むことができた。 ・平仮名を読むことができるようになったことで, 他の学習や日常生活の中でもいろいろな文字に関心をもつことができた。 ・2つの中から選ぶことができるようになったことで, 日常生活の中でも, 好きな物ややりたい方を選ぶことができるようになってきた。			

